

2012
ver5.006

ゾンビ布教フリーペーパー

Cafe of the Dead

カフェ・オブ・ザ・デッド
Cafe of the Dead

ゾンビ
か
わ
い
い
い

自主制作ゾンビ映画

undertaker

第2回完成披露試写会&レビュー

TODAY'S RECOMMEND

ゾンビ
世界であなたと
nanako 一緒に

Zombie
実在するチュリップ「ゾンビ」

南瓜金助のゾンビ漫画

ゾンビ・チュリ子の気持ち



第1回

ゾンビアンケート

お名前
性別
年齢

ゾンビとのファーストコンタクトは？

好きなゾンビ作品は？

ゾンビのことをどう思う？

どんなゾンビが好み？

ゾンビに求めるものは？

	重要	まあ重要	ふつう	別に	あまりもない
お食事シーン					
ゾンビの造形					
生存者のお色気、ボロリ					
生存者の恋愛					
生存者同士のやりとり					
銃撃、アクション					
ゾンビ化を防ぐ方法、治す方法					
ゾンビ化の経緯					
SF、ウェスタンなど舞台設定					
電撃場所、武器					

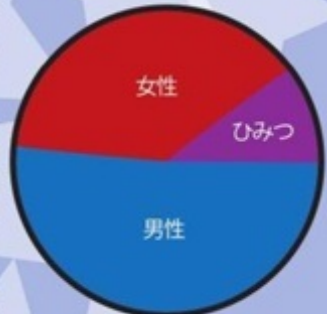
コメント自由記入欄

突然ですが、ゾンビカフェ委員会では、ゾンビに関するアンケートを実施しました！短い期間での募集となりましたが、52名の方に回答を頂きました。質問内容は左にある名前を含めたり項目、基本的なことではありますが、ゾンビ好きに聞いてみたい項目をチョイスしてみました。

結果を見てみると、予想どおりであった部分と、予想外な展開になった部分と種々でした。ゾンビ好きと一言でいっても、ゾンビに求めるところは人それぞれ。

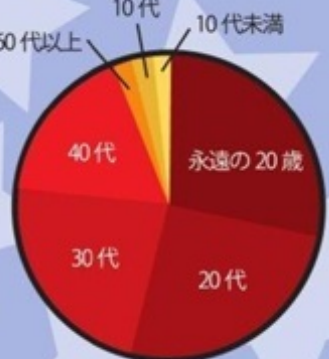
アンケートは定期的に行っていく予定ですので、今回お答えいただいた方も、そうでない方も、ぜひぜひご協力下さい！

2 性別



予想に反しまして、ゾンビアンケート回答者の男女比率は男性27名に対し女性20名、ひみつと回答頂いた方が5名。予想外に女性が多い結果となりました。ですが、実はツイッターではゾンビ好き女子(ゾンビ系女子?)が多い印象。

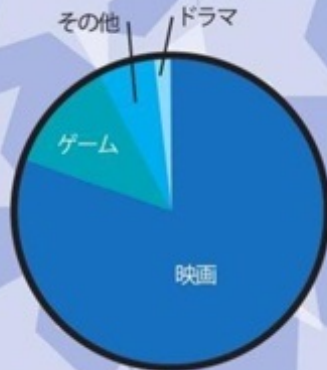
3 年齢



ロメロ監督の「ゾンビ」の日本公開が79年だというのに、回答いただいたゾンビ好きの年齢層に20代が多いという結果。逆を言えば50代以上が1人しかいなかったというのもしか不思議な感じですか。

しかしやはり、現在のゾンビ好きは20代〜30代中心。ゾンビ流行りが顕著になってきたここ数年で更に年齢層がさがるだろうと予想できる場所ですね。老若男女愛されるゾンビということになっていただきたいと思いますね。

4 ゾンビとのファーストコンタクトは？



予想どおり、映画でゾンビと出会ったという方が大半です。ゲームと回答された方はやはり20代。映画は年齢問わずに回答がありました。ドラマから、という方は「ウォーキング・デッド」でしょうか。マンガや小説からは予想外でした。まだまだ作品が少ないからでしょうか。今後に期待です。

5 好きなゾンビ作品は？

ジョージ・A・ロメロ監督
ゾンビ (日本公開 1979年)

ジョン・オバレン監督
バタリアン (日本公開 1986年)

誰が何を言おうと、ロメロ監督の「ゾンビ」が圧倒的でした。やはりゾンビの基本、といえるこの作品なのでしょう。「3部作」という形であげている方もちらほら。ロメロ監督作品の別タイトルもいくつかありました。

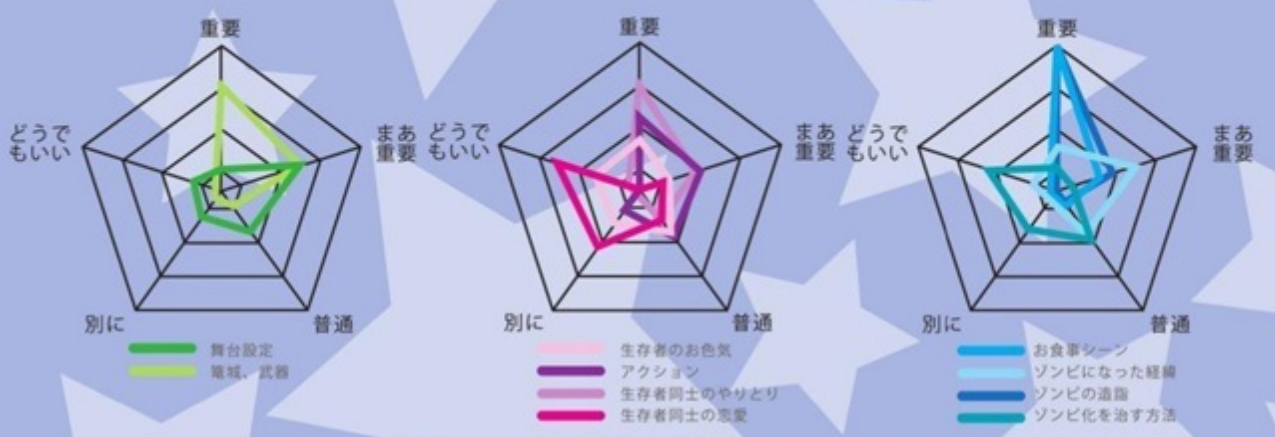
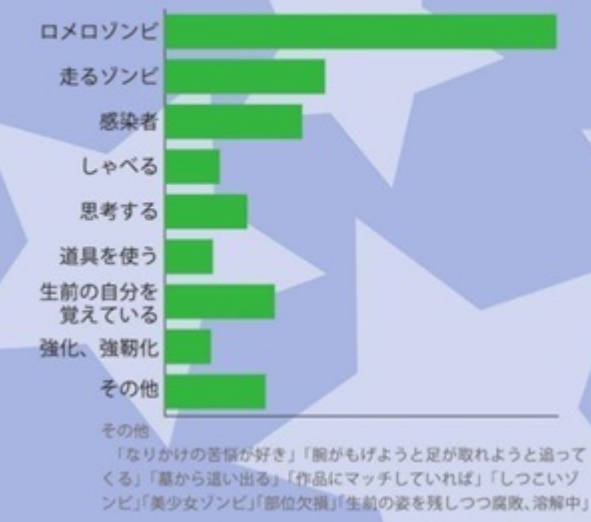
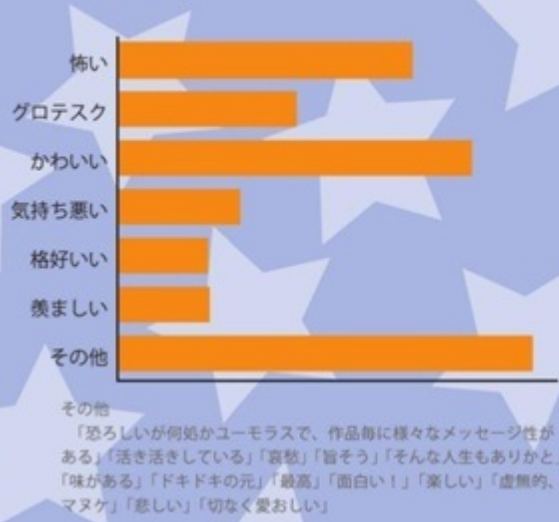
ロメロ監督の「ゾンビ」とセットで外せないのがこの「バタリアン」。「これはゾンビと言えないのか？」と疑問に思う部分もありますが、やはりゾンビ映画としては不動の地位を獲得している作品です。

「サンゲリア」「ベットのセメタリー」など、やはり全体的に古い作品が並びますが、「ゾンビ大陸アフリカン」「ザ・ホード」など、比較的新しい作品も少なくはないといった回答でした。しかし見事なまでに映画作品ばかりが並びました。

ゾンビのことをどう思う??

ゾンビに求めるものは??

自由コメント



Q658はゾンビそのものに対する質問でした。「ゾンビをどう思うか」「その立ち位置は?」また「生存者の立ち位置は?」といった質問に対し、回答は様々。しかしやはりゾンビ作品に対しては細かい設定や生存者よりもゾンビの存在が大きいようです。このアンケートを行った対象がゾンビ好きということもあるでしょうが、「ゾンビをどう思うか?」という問いで「かわいい」「羨ましい」という回答が多いのはさすがとしか言いようがないです。恐らく一般的には「グロテスク」や「気持ち悪い」などが多いのではないだろうかと思っておりますが、さすがゾンビ好きは違いますね。しかし流石に「皆そう」にはビックリしました。(笑)

そして皆さんやはりロメロゾンビ好きですね。ゆっくりのつたり歩いて来て、頑強れば女性でも撃退できちゃうぐらいの動き。「壁を走っちゃうのもいいんだけど、それとこれは別腹」そんな声が聞こえてきそうな結果です。やはり皆さんどんなに舞台設定が凝っていても、ゾンビがショボければNGとなってしまうのではないかと思うほどゾンビに対して非常に思い入れのある回答ばかりです。これはもしかして、作中主人公たちが必死になってゾンビ化を治す方法を模索しているのに、見ている側は「そんな別にどうでもいいからゾンビ出せや」なんて思っているという状況なのでしょうが、非常に興味深い結果です。

「映画を見ていて思うのは、「ゾンビ役の方たちが一番楽しんでいる」ってことで「カッター」の声がかかるたびに、お互いを見て笑いあっているような気がします」(Sakuraさん/女性)

「ゾンビ好きに悪党はいない。恋愛するならゾンビ好きを狙え!」(佐伊村司さん/30代男性)

「ウォーキング・デッドの影響が、ゾンビが市民権を得られつつあるのは喜ばしい。しかし、死人」(Yoshi-kamiさん/男性)

「ウォーキング・デッドのあたりは大きかったですね! この作品をきっかけにゾンビを見はじめた、という方もいらっしゃると思います、非常に嬉しい限りです。」

「初めて見たゾンビはロメロのどうにも画面から匂いの漂ってきそうなゾンビだったのですがその「匂い」こそがその後のゾンビものの「好み」か「好みじゃない」かを分ける大きな要因になりました。私の中のゾンビは正しく人である事を終えてしまった固体であって走ることも思考する事も無くなったものであつて欲しい、その身から漂い出るのは人からは嗅ぐ事が有ってはいけない匂いであつて欲しい、との思いこそが私の揺るがない「良いゾンビ」の基準だったりにしています。これからもそんな素敵なゾンビたちがこの世界のどこかで蠢きまわってくれる事を期待しております」(つら右京さん/40代女性)

「自分の中にある「良いゾンビの基準」というのは確かにあります。眼鏡にかかったゾンビが出てきたとき思わず「よっしゃあ」と言ってしまうのは決してわたしだけではないはず!

「空前的ゾンビブーム、日本の連ドラでもゾンビものをやるぐらいの心意気が欲しいです」(ママさん/女性)

「ゾンビブーム、来ますね。これに乗じてぜひぜひ多くの方にゾンビ作品の良さを知って頂きたいです。日本作品だけでなく、海外のゾンビ作品をTV放映するなどでもゾンビの知名度を広げるためにぜひともして頂きたいですね。」

「吸血鬼好き、狼男好き、殺人鬼好き、クリチャー好きなど、ホラー愛好家の嗜好にはいろいろ種類がある訳だがとりわけゾンビ好きの人数は多く感じられる。何かしら理由があると考えているのだが可能性が多岐にわたるため明確な回答には辿り着いていない」(Hagaさん/40代男性)

「そうなんです。ゾンビ好きは意外というんです。しかし「ゾンビ好きだよ!」なんて公言している人は少ない。でも「吸血鬼好き」と「ゾンビ好き」はどうしてもニュアンスが異なりますからね……。」

アンケートへの協力ありがとうございました!

4月末にSKIPシティ彩の国（埼玉）にて開催された「群像人アンダーテイカー」の第二回完成披露試写会に参加して参りました。

「群像人アンダーテイカー」は川松尚良監督が長年の構想から完成に至ったスタイリッシュ・ゾンビ映画。特殊メイクには中田彰輝氏とゾンビの造詣にもかなりのこだわりを持って作られた日本発のゾンビ作品です。

自主制作映画ながらその完成度には目を見開くばかりです。ストーリー、ゾンビの造詣、そしてアクション。スタントを使わなかったというそのゾンビとの戦闘シーンは必見です。暗く絶望した世界にありながらどこか何かを期待させる、そんな世界観が見ていて引き込まれます。

群像人アンダーテイカー

舞台は「死体が蘇生する現象」が各地で勃発し、荒廃した日本。そんな世界で二人、その蘇生者と対峙する主人公良一。彼は依頼を受け、蘇生者を始末する「群像請負人」。依頼を受けると彼はその人物の「どこかを持ってきて欲しいか」と尋ねます。そしてその人物が徘徊していると思われる場所まで出向き、その人物にとどめを刺すのです。

作品は良一の過去から始まり、群像請負人として一件の仕事を請け負い、終了するまでを描いています。そしてどこかどこかに描かれる良一の苦悩――。

日本映画らしい情緒あるストーリーに、現代らしいスタイリッシュなアクションシーン。一枚一枚が画になる映像は目を離す隙がありません。

そして何より、メディアへの露出を抑え

たゾンビの造詣！ 川松監督が自撮りカメラで紹介するほど、その姿は異様かつ邪悪。

そしてゾンビ以外にも、主人公の洋服や武器のデザインが非常に格好いい！ 舞台が日本である以上、拳銃が登場するのはどこか違和感があります。しかしこの作品では無理な設定で銃が登場させるのではなく、身近で誰でも手に入れること出来る物を格好良く武器として描いています。

しかしながら、この「群像人アンダーテイカー」には、ゾンビ映画界に目立って来たコアディタは一切ありません。ただひたすらに怖い。ただその一言に



見えます。

しかし荒廃した世界の現状とした現実を描いた作品が聞く気がおけない。その「モノクロ」というのは、おとろりと時間の経過が自然です。そういった視点で見れば、この「群像人アンダーテイカー」はゾンビと人間のモンスターが争う作品ではありません。開演はあく「ホラー」なのです。

今年の6月末がリリースされる「群像人アンダーテイカー」は、今回来た観客になるホラー映画祭「FRIGHTNIGHTHORRORWEEKENDFILM FEST」では土曜が「群像人アンダーテイカー」の世界を広めようとしています。

そんな「群像人アンダーテイカー」ですが、実は今回の作品は副題に「Episode1」と入り、ついに、今回公開したのが

作品は、大々的には相対する中にある一つの物語ではないのです。川松監督自身、試写会の場で「この作品は責任のための映画。サム・ペイトルの『The Good, the Bad and the Ugly』だ」と言っています。

「今までの日本のゾンビ映画は結構、どろどろと描いてきた。川松監督、今までの作品は、日本におけるゾンビ映画の発展を望み、ゾンビ映画の歴史に足跡を残すつもりです。」

「ゾンビ映画、ホラー映画、そしてSF映画、アクション映画、これらはすべてともに関係した作品であり、無関係なジャンルです。」

今のところ「群像人アンダーテイカー」の劇場での公開の予定はありませんが、多くの方に見て頂きたい作品です。公式サイト

ホームページで特トレイラーが見ることが可能です。これだけでも自分だけの作品の格好良さを感じられます。

今までの日本ゾンビ映画とは一線を画したこの作品を見れば、必ず賞賛、そして「日本の映画」ともなるものと思いがちです。それは間違いなく、そして何より、それが期待させる、そんな作品です。



川松尚良 監督
この「群像人アンダーテイカー」を作るほど熱意ある監督。第3回ひろしま学生半全マラソンでは長編ホラー映画「マクト」にてグランプリを受賞。



MOVIES, COMICS, AND GAMES
TODAY'S RECOMMEND
 ONLY ZOMBIES



「TODAY'S RECOMMEND」はゾンビ作品について紹介するコーナーです。今回は北上秋彦の「死霊列車」についてご紹介いただきました。ゾンビ小説はいかがでしょうか。

電車で乗っているとき、わたしは本を読むことにしている。ミネラル・ウォーターを飲みながらでも、アーモンド・チョコレイトをつまみながらでもいい。ときどき車窓から見える景色に、我を忘れてもいい。時間が流れるままに、笑しめればそれでいい。問題は、その時どんな本を読んでいるかだ。これから紹介する本は、日本列島が終わってしまった話だ。しかも、ホラー小説だ。それをもって、鉄道小説で、ゾンビ小説で、終末小説でもある。まるで焼肉丼にステーキと交ったトロをいっしょに載せてから、わざわざ醤油と生卵を垂らしたように豪華絢爛な小説だ。「いかに人も人を選びそう。好きな人は好きだろうけれど……」と敬遠されそうだが、とにかく読ませる。ストロングで、ラストまで躊躇せず読ませてくれる。なにしろ、じっくりじっくり読まなくていい。多少読み飛ばしたって釣りか来るくらい、物語はグイグイと疾走する。だが、先を見抜けるほど甘くない。ここからは、あなたと本だけの時間だ。

真夏の東京都と鳥取県で、ダース（特殊な狂犬病）が蔓延した。感染者はゾンビに変貌し、人を襲って、瞬く間に日本列島を崩壊した。政府は本州を見捨て、北海道に拠点を移した。ゾンビたちの襲撃を生か滅びた高校生・翔太は、トロコ列車「奥出雲おろち号」(実在している!)を運転して北海道を目指す。そこに陸上自衛隊の部隊や謎の女性科学者が乗り込んで、サウアイバルの旅は地獄めぐりと化す。迫りくるゾンビたち、複雑なアクシデントの数々、そして恐るべき悪意が彼らをどん底へ突き落とす。津軽海峡封鎖のリミットが刻々と迫る中で、翔太はある秘密を抱えていた。

ほんとうに、よく出来た小説だ。有名なゾンビ映画の数々に敬意を払いつつ、しっかりと紙の上で「ゾンビ映画」をしている。しかも、舞台は日本全国津々浦々。おまけにトロコ列車を自分で運転して、逃避行する話だ。すごく普及を試み、しっかりとしたウォリアムの中に収めている。もちろん、濃厚で閉塞感が漂う話だ。スプラッター描写も容赦ない。それでいて、ドライブ感も確かなエンターテインメントとして構築されている。文章も読みやすく、サクッと映像をイメージしやすい。手に汗握ること請け合いだ。いっそ、どこかで本書の映像化権を買って、ちゃんと映画化してくれないだろうか。その為には、このレビュートを読んで興

味を抱いて下さった方々が、本書を書店で購入して頂かないことには、何も始まらない。さて、すでに本書をお読みになった方は、こう思うかもしれない。「こいつはまるで、陳腐なB級ホラー映画じゃねえか!」。その通りだ。これもまた読みどころの一つなのだ。脱線寸前のおんぼろ・ジェットコースターに乗って、月の裏側どころか火星に不時着してしまうような話なのだ。あちこちが破綻したり、登場人物が「リアル」じゃないと怒りたくなる向きもあるだろう。だけど、この本に負けないくらい、現実だつてどうかじている。そうだろうか?

本書は上質なバルブ・フィクションだ。野暮な事に構わず、弾丸に疾走するだけだ。ちよっとしたツツコミやストレスなんかブツブツするくらい、馬力に富んだエンターテインメント小説なのだ。お上品な演や砂糖菓子みたいな優しさが欲しければ、こんな小説に手を出してはいけない。ここに書かれているのは、血みどろの地獄絵図と終末の風景だ。優しい人からどんどん亡くなって、醜いゾンビたちが大手を振って歩いている国の話だ。その代わり、面白さは保証する。

今年の夏も、節電様になりそう。電車は満員、ギスギスしたひとごみで圧倒されるだろう。べたべたする悪汗、痛むような喉の渇き、ゆるくなったミネラル・ウォーターに、半熟どころか溶けてしまったアーモンド・チョコレイト、将来のことを考えていて頭痛が始まったら、この本を読もう。なんたって、現実の憂さや迷いを捨てなければ、生きていけない世の中なのだから。

ユウ

関西在住。立派な社会人になろうとしては、失敗を繰り返してばかりの既卒新卒三年目。アルバイトを転々とする度に、恐怖体験(サイコ系・心霊系)に見舞われる体質の持ち主。そろそろどうにかしなければと思いつつ、いままでも何にも出来ずに生きてきました。好きなことは、映画を見ることと音楽を聞くことと本を読むこと。パン屋さんの食べ歩きも好きです。最近のゾンビ映画では、『REC/レック3 ジェネシス』がすぶる痛快でした。



佐伊村司 × 高橋構造
CRUELER THAN DEAD
 漫画家、佐伊村司が贈るゾンビの世界!!!

2012年6月25日
 秋田書店プレイコミック 佐伊村司 × 中山茂大

現在『CRUELER THAN DEAD』
 『CRUELER THAN DEAD Episode 2』
 COMIC ZINにて委託販売中!

新連載
東京アンデッド

私、チュリ子。何とゾンビという品種のチュリリップなの。

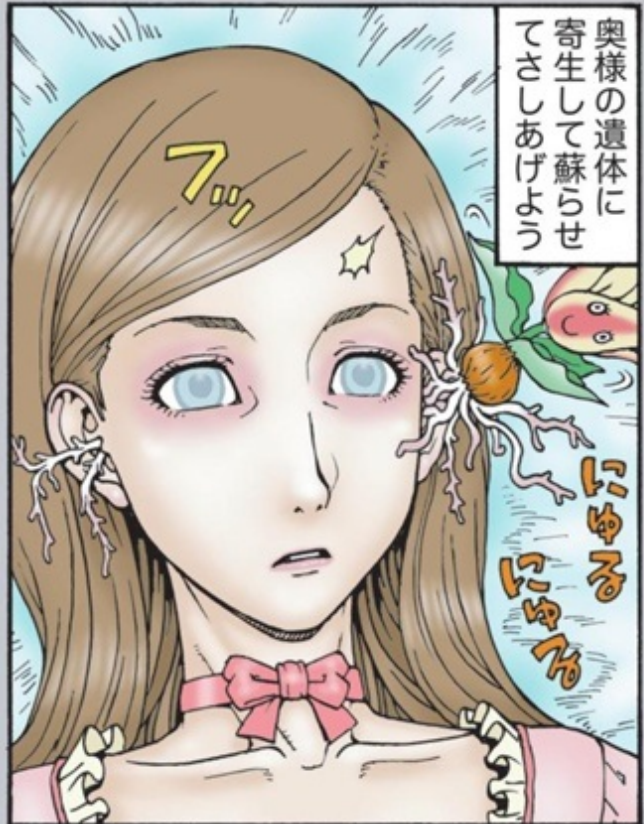
園芸が趣味の仲の良いご夫婦に育てられ、すくすくと成長中…

所がある日突然奥様が亡くなられ、旦那様は失意のどん底に…

あまりにも悲しむ旦那様の姿を見ていられなくてチュリ子思ってたわ



奥様の遺体に寄生して蘇らせよう



生き返ったのか!!

ああが

お前!!

ゴッゴッゴッゴッ

にゆるにゆる



チュリ子の奇跡は誰にも知られないまま終っちゃった

おしまい



お前…生き返ったんじゃないの?!

ばたーん

ウンお



!?



気持ち悪いな!!

きやあ

バキ

ゾンビ世界であなたと一緒に

nanako

『Zombieland』の主人公は「ゾンビ」の世界で生き残るために奮闘する。『Zombieland』は、ゾンビ映画の定番である「ゾンビ」の世界で生き残るために奮闘する。『Zombieland』は、ゾンビ映画の定番である「ゾンビ」の世界で生き残るために奮闘する。

この作品を見て「ゾンビ処刑人」を思い出した。「ゾンビ処刑人」はイラクで戦死したパートがなぜか生き返ってしまい、友人ジョーイを頼る。パートの為に血を求め、町の悪人を倒す……というお話。友人のジョーイもゾンビ化し、二人でラデツキー行進曲をバックに悪人退治をする場面は素晴らしい。そして終わりにはちょっと切ない。

こちらも、血を吸うのだから正確なゾンビとはちょっと違う。でも、死から蘇ったということでゾンビかな。見た目も、臭いも。

二つの作品では男二人の「友情」が描かれる。ゾンビ化してから出会う（ゾンビ・ヘッズ）と生前からの友人（ゾンビ処刑人）との違いはあれど、二人は生前の恋人を探しに旅にでたり、血のために悪を退治したり。

一人が「ゾンビになっちゃった……これからどうしよう……」と悩んでも「これで好きなことできるぜ！」ともう一人が言う。真面目系の主人公と、いい加減でおしゃべりな友人。この組み合わせが最高！もし私がゾンビになったら絶対悩むと思うけど（まづ意識があるが問題だが）、とりあえずビール飲みましょう！と誘ってくれるフレンドみたいな友人が欲しいなあ。

『Zombieland』は、その気持ちをもっと強くさせる。むしろ「ゾンビ生活楽しそう」とまで。もちろん、ゾンビになった寂しさというか切なさというか……の半分もいっばい描かれてるんだけど、それを忘れてしまおうくらい楽しそうなのだ。

この二本は危険だ。「ゾンビになってみたい」と思ってしまう。改めて「ゾンビ怖い！嫌だ！人間でいたい」と思わせてくれる作品を早く見なければ。

そう思う反面、四人のゾンビが愛しくてたまらな

Zombie

実在するチューリップ「ゾンビ」



「ゾンビ」という名のチューリップがあるらしい。そんな話を聞き、ゾンビカフェ委員会では北海道上湧別町にある「かみゆづつチューリップ公園」に咲いていると聞き、早速問合せをしてみました。どうやら日本ではあまり見ない種類のチューリップらしく、一般に公開しているのはここだけのようです。

「Zombie」というチューリップはどういうものなのか教えていただけますか？そんな質問に対し、上湧別町商工観光課観光係の担当者の方から返信が来ました。

「チューリップはオランダ王立球根生産者協会により15系統に分類されており、「Zombie」はその内のフォステリアナ (Fosteriana) 系になります」

……まずチューリップにそんなに種類があったなんて知りませんでした。反省して調べてみると、どうやらチューリップは①一重早咲き、②八重早咲き、③トライアンフ、④ターウィーン・ハイブリッド、⑤一重晩咲き、⑥ユリ咲き、⑦フリンジ咲き、⑧ビリディフロラ、⑨レムブラント、⑩パロロット咲き、⑪八重晩咲き、⑫カウフマニアナ、⑬フォステリアナ、⑭グレイキー、⑮その他の野生種、の15系統。「Zombie」が分類される⑬フォステリアナはいわゆる原種と呼ばれ、野生種とその近縁の品種をまとめた系統に分けられます。

「Zombie」は草丈30前後とやや中型の部類で、早生咲き「なるほど」と言いたいところですが、



チューリップにあまり緑のないわたしにはそれはどんなものなのか分からず、写真を送っていただきました。それがこれ（右上写真）です。「Zombie」なんて大層な名前がついている割には驚くほどキレイです。

しかしどうやらこの「Zombie」は花びらの裏表で色が異なり、中は花の中心から黒くオレンジ〜クリーム色という色合いになるらしいのですが、表側は写真のようなクリーム色の縁取りのある色合い。つまり、閉じてるときと咲いているときの色合いが異なる不思議なチューリップらしいです。わたしの様にチューリップに詳しくない人が見たら絶対に同じものだとは思えないような仕掛けです。

「この花からの芽変異（枝変わり）による品種に「Zion（シオン）」という品種があるそうです。AMHS 1954との記載があることからRHS（英国王立園芸協会）の賞を受けている品種のようです」と、「Zombie」には親戚がいて、それがこれ（左写真）です。同じように縁取りのある色合いで、名前と連想するものとは違って、かわいらしいチューリップです。

また、「昨秋、「Zombie」は本町の「かみゆづつチューリップ公園」にも植えられており、平年並みの気候推移であれば5月中旬頃に開花する見込みです。もし機会がございましたら、本町にお越しいただき7万㎡の花の城壁をお楽しみいただければ幸いです」とのことなので、本物の「Zombie」が見たかったらぜひとも北海道上湧別町までお越し下さい。しかし見るならぜひとも閉じた姿、開いた姿の2パターン見たいものです。

タイムライン @関連 リツイート▼ 保存した検索▼ リスト▼



中山 ヒロユキ binzombie

工房 binzo と名乗り、ゾンビフィギュアばかり制作、販売！現在は長編映画のゾンビクレイアニメ『LIFE OF THE DEAD』を制作中♪第6話が6月頃に公開予定です。第1?5話まで you tube にて公開中 工房 binzo HP→binzo.zombie.jp



「女子高生のはらわた」「血まみれ風呂屋」 JyoshiHara

卒業制作とは思えない特殊メイクやアクションの多さ！残酷すぎる内容に大学から封印された怪作「女子高生のはらわた」（ゆうばりファンタ正式出品、学生残酷映画祭2010審査員特別賞）がDVD発売中！amazon、全国CDショップ等でご注文下さい！同時収録エログロ下衆映画「血まみれ風呂屋」



君ホラ大好き！ kimihora_mania

【ゾンビ素材増えてます！】http://ac.la/kimihora 投稿型携帯ノベルゲーム『君に贈るホラー』サイトです。怪談伝奇・都市伝説・妖怪魔物「ゾンビ」・SF・ミステリー・実話系などのホラーサウンドノベルを創りたい&遊びたい方は是非お越し下さい☆ゾンビ増殖中！ケア!



Tokyo Biblio Tokyo Biblio

Tokyo Biblio は西荻窪の KISSCAFE で「ビブリオバトル at KISSCAFE」というイベントを毎月定期開催しています！ビブリオバトルとは今話題の簡単な書評のゲーム。あなたもオススメの本を5分間で紹介してみませんか？詳細は→tokyo-biblio.com

140字広告コーナー

「Cafe of the Dead」に140文字のイベント告知などの広告を掲載しませんか？

こういったツイッターのような形式で広告が掲載されます。掲載料は無料。広告内容はイベント告知やサイトの宣伝、お友達募集、エキストラ募集など、ゾンビに限らず幅広くご利用頂けます。

※ただし、内容によっては掲載をお断りさせて頂く場合もございます。予めご了承ください。

ご興味ございましたら、下記Eメールまたは、ツイッターよりご連絡をお願いいたします。

また、画像を含む広告をご希望の場合は有料広告もございますので、お気軽にお問合せください。



ゾンビカフェ委員会とは……

ゾンビ好きによる、ゾンビジャンルの布教活動をしている有志団体です。様々な方にゾンビの良さを知っていただき、ゾンビ仲間を増やしていこうというのが「ゾンビカフェ委員会」の目的です。なお、ゾンビになったりゾンビを作ろうとしているわけではありません。

その名のとおりゾンビによるゾンビの為の「ゾンビカフェ」の開催を目標としています。そのために、それ以外にもゾンビを広く布教し続けるため、いろいろな活動をしています。趣旨でご賛同頂ける方のご協力をお待ちしております。



cafezombie



cafezombie@gmail.com

急募

- ★記事ライター募集！
このフリーペーパーに記事を書きませんか？ゾンビに対する熱い想いを語って下さい！
- ★ゾンビ絵師募集！
表紙絵を飾るゾンビ絵を書いて頂ける方はご連絡を！
- ★取材・掲載希望
お気軽にご相談下さい。

広告募集

「Cafe of the Dead」に広告を出しませんか？

この大きさ(縦100mm×横190mm)の広告を有料で掲載することが出来ます。掲載内容はゾンビに限りません。掲載箇所は冊子内下部と、裏表紙の2種類がございます。料金や詳細についてはお気軽にお問合せ下さい。



http://cafezombie.jimdo.com/



cafezombie@gmail.com



cafezombie